

サンダル音は環境問題（ 協同組合通信/ 井戸端論弾 ）14.10.28

秋が深まり、街中に行く颯爽とした若い女性達のサンダルや靴もしっとりと落ち着いてきた。今年も都会の地下街や地下鉄の階段を、我が物顔にカツ、カツと甲高い音を響きわたらせ足早に歩き、かけ回っていた音が少なくなってきた。

女性の足が長くスタイルも良くなって一見誠に結構だが、礼儀は進歩せず、はた迷惑な音に早く気づいて欲しい。

個人の自由といってしまうえば、それっきりだが、音の害について考えてみた。

昨今、環境問題が盛んで、確実に市民権を持ってきた観があり、多くのNPO団体や活動がある。CO2の増加、オゾン層の破壊、都市部のヒートアイランド現象、住宅開発に伴う土地の保水力の激減など個人レベルでは、なかなか直ぐに対応や解決が難しいものが多い。

その気になれば今すぐできること、街中に本来の静けさを取り戻し、大変好ましいものがある。

サンダルの甲高い音と暴走族の爆音。どちらも気温が高くなると増えてくる傾向までそっくりで、市民の嫌われものだ。爆音の方は群れをなす確信犯で、誰もその悪を知っている。一方サンダルの方は、本人が内心気にはしている（そう思いたい）が、人のことを思いやって止めようとはせず女心は複雑だ。流行やファッションの要素が強く、個人の問題以上に、メーカーの責任が重大で問い質す事が必要だ。

食品を巡るメーカーの社会的責任が連日大きく取り上げられており、サンダル・靴メーカーも承知している筈だ。音の改良や女性に正しい歩き方を自覚させる等、具体的な行動をとることをしないと痛い目にあっても後の祭りだ。

元来なかった無神経な騒音に、静寂な時を破られ日々付き合い悩まされる事が多くなった。携帯やウォークマン等の音、これにサンダルの音まで加わった。いずれも甲高く単調な連続音が特徴だ。

耳障りな騒音は環境問題だ。響きのよい音は、テレビニュースのアナウンサーの声を聞き比べてみるとよく分かる。

大事な内容を伝える時や番組ほど、鍛錬したやや低い音が、スピードと感情の抑制の効いた一語一語の音声は明瞭だ。甲高い速射砲的な喋り（漫才や軍事政権は別）方はない。

（ 気象情報システム株式会社 高 津 敏 ）